はじめに

CES17 号をお手元にお届けいたします。

2014 年度は、田口准教授がサバティカル研修で一年間アメリカと中国に行き、また後期からは児玉准教授が産休＆育休ということで、中国新疆省の農業の研究をしている古澤文助教が一年間代理教員を務めてくれました。2015 年度に入ると、入れ替わりに 4 月から吉田教授がサバティカル研修でイギリスに行かれるということで、なかなか全員が揃う機会が無いという、あわただしい時期でした。その間に文学部の改組話が急激に持ち上がって、2016 年度からは一学科制に移行することになり、日本文化学科は日本・ユーラシア言語文化コースと名前を改めることになりました。本誌もユーラシア言語文化論講座の名前で出すのは、今号が最後となります。

その間に、イリチさん（前期修了）、サジーワニー・ディサーナーヤカさん、ムンクバトさん、遠藤志保さんの四人が博士後期課程を修了し、遠藤さんは北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが合併して新設された北海道博物館に、センター担当の研究員として勤務することになりました。

博士前期課程では、廣田千恵子さん、佐藤雅子さん、吉川佳見さんが修了しました。廣田さんはカザフ・モンゴル等の遊牧民族の文化紹介に係わる NPO 法人の専属スタッフとして、専門のカザフ文様の知識を生かす仕事に就き、吉川さんは後期課程に進学しました。

一方、中川は文化庁の受託研究費を受けて、北海道平取町の二風谷アイヌ文化博物館と協力し、同博物館所蔵の萱野茂氏録音資料を聞き起こすという作業を行いました。この作業には平取町在住のアイヌの人たちとともに、博士後期課程院生の遠藤志保さん、小林美紀さん、深澤美香さんを中心に多くの人たちが協力してくれました。その成果は、アイヌ文化博物館のホームページから自由にダウンロードすることができます（http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/）。

また、中川は北海道大学からも受託研究費を受け、中川自身の採録した口承文芸資料を「アイヌ語音声資料アーカイヴズ」として、また首都圏在住のアイヌの子供たちの協力を得て作成したアイヌ語学習用のゲームを「アイヌ語児童教材」として、千葉大学地域研究センターのホームページに公開いたしました（http://www.cas-chiba.net/）。

田口准教授は、サバティカルあけの 4 月に大学に戻りましたが、7 月に三省堂から『明解言語学辞典』を編者の一人として上梓しました。執筆者の一人には、千葉大学社文研出身の長崎郁さんがいます。

大学の文科系諸分野は文科省の不用意な「不用」声明によって、さらなる危機を迎えておりますが、我々は人類の歴史と営みを考えることにおける、我々の研究の重要性を訴えつつ、さらに前進を続けていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

なお、このＣＥＳ17 号の編集は田口善久氏が担当いたしました。

2015 年 12 月　中川裕